

主 題：恵みシリーズ1、人生をやり直す

～ 新しく生まれ変わることを拒む罪 ～ ニコデモ

聖書箇所：ヨハネの福音書 3章1－15節

どうぞ、ヨハネの福音書3章をお開きください。この3章はニコデモと主イエス・キリストのやり取りが記されているところです。3：1から見るとこのように書かれています。「1 さて、パリサイ人の中にニコデモという人がいた。ユダヤ人の指導者であった。2 この人が、夜、イエスのもとに来て言った。」、みことばが教えるように、ニコデモはユダヤ人の指導者でした。その彼が主イエスのもとに夜やって来たのです。なぜ、夜にやって来たのか？少なくとも言えることは、昼間はイエスの周りにはたくさんの方がいたからです。イエスと個人的にゆっくり話そうとするなら夜しかないと考えたのかもしれませんが。いずれにしろ、彼はイエスのもとにやって来るのです。なぜ、彼がイエスのもとを訪れたのか？彼はあることをイエスに聞いてみたかったからです。それは「神の国」についてでした。

なぜ、そのように言えるのでしょうか？この会話を見ると面白いことに気付きます。先に見た2節の続きから「先生。私たちは、あなたが神のもとから来られた教師であることを知っています。神がともにおられるのでなければ、あなたがなされるこのようなしるしは、だれも行うことができません。」、ニコデモはただこれだけを言ったのです。すると、3節「イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」、不思議です。イエスはなぜこのようなことを唐突に言われたのか？理由は明白です。主イエス・キリストはニコデモが何のために自分のもとに来たのかを知っていたからです。彼の訪問の真意を知っていました。

2：24, 25にはこのように記されています。「しかし、…イエスはすべての人を知っておられたからであり、25 また、イエスはご自身で、人のうちにあるものを知っておられたので、…」、つまり、イエスは人間の心のうちのすべての考えや思いをご存じなのです。ニコデモが説明しなくても主はもうそのことをすべてご存じです。だから、イエスはニコデモが何のために自分のもとに来たのかを知っていたゆえに、その核心の部分について話を始めるのです。

ニコデモはユダヤ人の指導者でしたから、彼には旧約聖書の知識が豊かにありました。その彼がイエスのもとに来て、彼は「神の国」について聞こうとするのです。ところが、イエスは神の国について話すことよりも、ニコデモに対して神の国にはいることの大切さを教えられるのです。神の国についてどれだけのことを知ってもその知識はその人を神の国に入れられないからです。イエスがこのニコデモに教えたかったことは、神の国についての知識よりも、どうすれば神の国に入ることができるのか？ということです。

実は、私たちの周りを見ても、聖書に関して、もっと一般的に言うなら、キリスト教に関する知識をもっている人はたくさんいます。いろいろな機会にそれを学ぶことがあったかもしれないし、テレビやいろいろな書物を通して学んで来られたかもしれませんが、しかし、どんな知識もあなたを神の国に入れることはありません。そのことをイエスはニコデモに教えるのです。ですから、知識をもっている人はたくさんいますが、そのすべての人が救いを持っているかという、これは全く別のことです。

あるひとりの兄弟がかつて私に話してくれたことを忘れることはありません。彼はミッション系の学校に通っていたのですが、ある時に、チャプレンが生徒に話をします。その内容は完璧な福音のメッセージです。イエス・キリストによって罪が赦されて救いに与ると…。その話をした後、そのチャプレンは聖書を床に投げて「もし、このことを信じている人がいるなら、その人は愚か者だ。」と言ったといっています。驚くべきことです。悲しいことです。しかし、残念ながら、このような人は私たちの周りにたくさんいます。知識はもっているのです。でも、みことばが教える救い主を知らないのです。

ニコデモは知識は豊富でした。でも、旧約聖書が教える救い主を信じていなかったのです。そこで、イエスはどのようにすればその祝福に与ることができるのか？そのことをここで話されるのです。イエスがここで話しておられることは「神の国にはいるにはどうすればいいのか？」ということです。ごいっしょにみことばを見ていきましょう。

★生まれ変わるにはどうすれば良いのか？（＝どうすれば神の国にはいることができるのか？）

A. 新生の必要性 3-12節

まず、全体像を話すなら、3節から8節まで、イエスがニコデモに教えることは新しく生まれ変わること、「新生の必要性」についてです。そして、後半の9-15節でイエスが教えることは、では、具体的にどうすれば新生、救いを得ることができるのか？です。

1. 新生の必要性 3節

3節をもう一度ご覧ください。「イエスは答えて言われた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、新しく生まれなければ、神の国を見ることはできません。」、イエスは新生の必要性を知らなければならぬと初めに言われます。ニコデモに対して言うことは、どれだけ知識をもっているかではない、あなたは生まれ変わることが必要だと知りなさい、そのことを知らなければならぬというのが、イエスが最初にニコデモに言われたことです。神の国を見たければ、人は新しく生まれ変わらなければならぬと、まさに、これは3節でイエスが言われていることですが、新生の必要性をニコデモに教えるのです。これは、私たちすべてがそこに属します。例外なく、すべての人間は新しく生まれ変わること、新生が必要です。そのことをこれから見ていきますが、ここで3節のいくつかのことばを見ましょう。非常に大切なことばだからです。

「神の国を見る」 : 神の国とはいったい何でしょう？多くのユダヤ人たちは、地上に救世主を中心とした王国を築くということを知っています。私たちもイエスが地上に帰って来られた後、地上に千年の王国が築かれることを知っています。でも、「神の国」といったときはそれだけではないのです。ペーカーの神学辞典を見ると、そこにはこのような説明があります。「神の国と天国とは、同じ思想を異なった表現で表わしたものである。」と、つまり、「神の国」も「天国」も同じこと、表現が違うだけだと言うのです。「神の国」といったときに、皆さんにぜひ覚えていただきたいことは、「国」というからにはそこにはその国を支配する人がいるということです。「神の国」というなら、王である神によって支配されているということの意味を意味します。それが救いです。どういう意味か？説明します。

私たち人間は生まれながらに例外なく神の支配下にいません。私たちはサタンの支配下にいます。パウロが「そのころは、それらの罪の中にあつてこの世の流れに従い、空中の權威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている靈に従つて、歩んでいました。」(エペソ2:2)と教えています。かつての私たちは例外なく、すべての人々は「空中の權威を持つ支配者として今も不従順の子らの中に働いている靈に従つて」いたのです。だれのことか？サタンです。神の敵であるサタンです。ですから、パウロはかつての私たちはみな、例外なく、サタンに従っていた、サタンがあなたを支配していたと言うのです。これが生まれながらの私たちです。

そのような私たちに神はすばらしいみわざを為してくださったのです。コロサイ1:13でパウロはこのように言います。「神は、私たちが暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。」と。かつての私たちは罪の暗闇の中にいた、サタンの支配下にいたのです。しかし、感謝なことに、「神は、私たちが暗やみの圧制から救い出して、愛する御子のご支配の中に移してくださいました。」。クリスチャンであるあなたは今、神の支配のもとにいると言うのです。神があなたの王である、その神があなたを支配している。それがクリスチャンなのです。ですから、「神の国」といったときに、それは神が支配する領域のことで、今、あなたが神によって支配されているなら、あなたは神の国に属しているのです。あなたは確実に天国に国籍をもち、天国に向かって今日を生活しているのです。

ですから、イエスはどれほどの知識を蓄えてもいいけれど、そのことよりも、あなたが天国にはいる者に、神に属する者になることの方がはるかに勝つていられると言われます。当然のことです。知識をいっぱい蓄えて地獄に行くよりも、主イエス・キリストによって与えられる救いをいただくことの方がすばらしいことは、もう説明の必要もありません。

「見ること」 : もう一つ見ておきたいのは、「神の国を見ることはできません」の「見ること」とはどういう意味か？です。何となく私たちは肉眼で見るように思いますが、ここで使われているこのことばの意味は「経験する、それに加わる」です。同じことばがヨハネ3:36で使われています。「御子を信じる者は永遠のいのちを持つが、御子に聞き従わない者は、いのちを見ることなく、神の怒りがその上にとどまる。」、「いのちを見る」、同じことばです。明らかに、肉眼で見るということではないことが分かります。救いに与る、救いを自分自身が経験するということです。

ですから、この3節でイエスが言われたことは、あなたが神の国にはいるためには、すなわち、天国にはいるためには新しく生まれ変わること、新生、救いが必要だということです。イエスがニコデモを通して私たちに言われていることは、すべての罪人は自分には救いが必要だと知らなければならぬということです。そのことをイエスはニコデモにお教えになるのです。

2. 新生の意味 3、5節

イエスは3節と5節で「新生」に関して説明を加えておられます。「新生」とはどういう意味なのか？その説明をしておられます。二つの説明があることに気が付きます。3節には「新しく生まれなければ」とあり、5節では「水と御霊によって生まれなければ」とあります。どちらも新しく生まれ変わること、新生、救いのことですが、どういう意味なのかを見ていきましょう。

1) 新しく生まれる 3節

「生まれる」とは「子どもが生まれる」と同じ意味です。実は、「新しく」ということばが大切です。この副詞は「上から、天から」、すなわち、「神から」という意味です。ですから、ただ肉体的に生まれるということではなく、上から、天から、つまり、神から生まれるということです。同時に、「新しく」とは、「再び、もう一度、新たに」という意味があります。あなたはもう一度新たに生まれなければならないと、そのことをイエスはこの3節で言われたのです。だから、4節でニコデモが「…「人は、老年になっていて、どのようにして生まれることができるのですか。もう一度、母の胎に入って生まれることができますでしょうか。」と答えたことがよく分かります。ニコデモはイエスが言われたことがことばの上ではよく分かったのです。「新しく生まれる」「再び生まれる」と言われたときに、「また、母の胎に入るのですか?」と問うています。イエスが言われたのは、肉体的に生まれ変わるということではなくて、霊的に新しく生まれ変わるということです。そのことはこの後にも出て来ます。ですから、3節の「新しく生まれなければならない」とは「天から、神によって、新しく生まれ変わること」です。

2) 水と御霊による再生 5節

「イエスは答えられた。「まことに、まことに、あなたに告げます。人は、水と御霊によって生まれなければならない、神の国に入ることができません。」「水と御霊によって生まれる」とはどういう意味でしょう?

(1) 水 : 水のバプテスマのことではありません。一般的に、多くの人たちは水のバプテスマ、洗礼によって救いに与ると信じていますが、みことばはそのように教えていません。ここでも水のバプテスマのことを言っているではありません。なぜなら、だれひとりとして行ないによって救われることはないからです。水のバプテスマは、もうすでに神によって罪赦されたことを、公に証する機会であることは皆さんよくご存じのことです。

では、ここで言われている「水」とは何か?これは「きよめ」のことです。実は、旧約聖書においては、水は比喩的に「霊的きよめ、更新」の意味を持っています。特に、水が霊と結合して用いられた場合、これは「きよめ」を意味します。ですから、エゼキエル書36:25にはこのように書かれています。「わたしがきよい水をあなたがたの上に振りかけるそのとき、あなたがたはすべての汚れからきよめられる。わたしはすべての偶像の汚れからあなたがたをきよめ、」と。また、ヘブル10::22にも「そのようなわけで、私たちは、心に血の注ぎを受けて邪悪な良心をきよめられ、からだをきよい水で洗われたのですから、全き信仰をもって、真心から神に近づこうではありませんか。」と書かれています。「きよい水で洗われた」と、ですから、この「水」は「きよめ」を意味します。

*主はこの「きよめ」の働きを、聖書のみことばを通して為すのです。パウロはエペソ5:26「キリストがそうされたのは、みことばにより、水の洗いをもって、教会をきよめて聖なるものとするためであり、」と言いました。神は「きよめる」働きを神のおことばを用いて為すと言います。また、ペテロもこのように言っています。Iペテロ1:23「あなたがたが新しく生まれたのは、朽ちる種からではなく、朽ちない種からであり、生ける、いつまでも変わる事の無い、神のことばによるのです。」。ですから、こういうことです。

*神のおことばは皆さんの心に働きます。聖霊なる神は神のおことばを用いて皆さんの心に働きます。まず、(a)「罪」を示し、あなたがどれほど神の前に汚れた罪に汚れた者であることを示してくれます。その後、(b)「主イエスにある救い」を示されます。あなたが神によって愛され、すばらしい救いを備えてくださった。そして、主イエスにある救いへと導いていけます。そのようにして、あなたをきよめてくださるのです。ですから、「水による新生」は神がみことばを用いてあなたの心に働き、あなたをきよめてくださるのです。

(2) 御霊 : ここでは、聖霊なる神があなたのうちにはいることによって、このような働きを為されると、そのことを言っているのです。「水と御霊」という二つの働きではありません。一つのことです。なぜなら、この箇所面白いことばの並び方がされているからです。「水」と「御霊」という二つの名詞が並んでいます、しかし「水と御霊」は「そして」という接続詞によってつながれていて、この二つの名詞の前に、「～から」という意味をもった前置詞が付けられています。このような書き方が意味することは、二つの名詞が一つのことを指しているということです。

確かに、あなたが新しく生まれ変わるためにはあなた自身の罪がきよめられることが必要です。ここでイエスが言われたことは、「聖霊なる神があなたのうちに働き、聖書を使ってあなたのうちに働き、あなたに罪を示し、そして、キリストの救いへと導く、そうして、あなたはきよめられる。」ということです。これは人間が自分で為すことができる働きではありません。神のわざです。聖霊の働きです。先ほど見たエゼキエル書の続き、36:26, 27には「:26 あなたがたに新しい心を与え、あなたがたのうちに新しい霊を授ける。わたしはあなたがたのからだから石の心を取り除き、あなたがたに肉の心を与える。:27 わたしの霊をあなたがたのうちに授け、わたしのおきてに従って歩ませ、わたしの定めを守り行わせる。」と書かれている通りです。

ですから、イエスは「このような働きを神は為される」と言われたのです。神に逆らい、罪の中を生

きていたあなたに対して、神はもうすでにこういうことを為されたのです。クリスチャンの皆さんはそれに与ったのです。聖霊なる神はみことばを使ってあなたのうちに働き、あなたを救いへと、罪のきよめへと導いてくださった、そのことをイエスはここでお話になったのです。あなたは神によってもう一度生まれ変わることが必要だと、そして、5節では、聖霊なる神によってあなた自身がきよめられることが必要であると、このことを話されました。

3. 新生のみわざ（主によるみわざ） 6-8節

6-8節を見ると、この「新しく生まれ変わる」という働きはまさに神の働きであるということを教えるために、イエスはこのようなことを言われました。

1) その特徴 6節

「肉によって生まれた者は肉です。御霊によって生まれた者は霊です。」、肉から生まれた者と御霊によって生まれた者との対比が為されています。肉から生まれた者は肉の性質、つまり、罪を持って生まれるということです。私たち人間はみな、両親から生まれて来ました。罪を持って生まれて来ました。「肉によって生まれた者は肉です。」と、その特徴をしっかりと持っていると言います。罪人から生まれて来た私たちは罪という性質を持って生まれて来ていると。

そして、イエスは「御霊によって生まれた者は霊です。」と言われました。これは聖霊のご性質を持ってその人は生まれるということです。信仰に与った皆さん、救いに与った皆さん、あなたは神のご性質をいただいて新しく生まれたのです。なぜなら、あなたは霊によって生まれたから、その方のご性質を持って生まれて来ているのです。実は、そのことについてペテロはこのように教えています。Ⅱペテロ1:4「その栄光と徳によって、尊い、すばらしい約束が私たちに与えられました。それは、あなたがたが、その約束のゆえに、世にある欲のもたらす滅びを免れ、神のご性質にあずかる者となるためです。」と。信仰者の皆さん、ペテロが教えることは、あなたは神のご性質に与る者とする者となったということです。私たちが新しく生まれ変わったときに何が起こったのか？聖霊によって私たちは新しく生まれ変わった、その神のご性質を持つ者として私たちは生まれ変わったのです。それが救いであるとみことばは私たちに教えてくれます。救われた人々は、クリスチャンであるあなたは神のご性質を持っているのです。だから、目に見ることのできない主イエスが、あなたを通して明らかにされるのです。

皆さん、私たちが何度も学んで来たように、この世の人たちは神を見ることはできません。でも、見ることができる唯一の方法は、生きているあなたを通してです。そして、みことばが私たちに教えていることは、私たち神の恵みによって救われたひとり一人は、神のご性質をいただいて新しく生まれたということです。霊によって生まれたあなたは、その霊である神のご性質を持って生まれたのです。あなたが神になるということではありません。だから、私たちは救われる前と救われた後では、その生き方に変化が出て来るのです。それまでは神を悲しませることなど何とも思っていなかったけれど、救われた後は、神を悲しませることができなくなって、神を喜ばせたい、罪から離れていこうとします。なぜそのような変化が起こるのか？あなたは神によって生まれ変わったからです。あなたのうちに新しい神のご性質があるからです。そのようにみことばは私たちに教えてくれます。

パウロはこのように言います。エペソ4:24「真理に基づく義と聖をもって神にかたどり造り出された、新しい人を身に着るべきことでした。」、同じエペソ2:10「私たちは神の作品であって、良い行いをするためにキリスト・イエスにあって造られたのです。神は、私たちが良い行いに歩むように、その良い行いをもあらかじめ備えてくださったのです。」、「良い行い」、私たちの主を明らかにする「良い行い」をする者へと生まれ変わったのです。これが神が与えてくださった救いです。これが神が約束された救いです。生まれ変わるのです。新しい人へと生まれ変わるのです。

2) その実際 7、8節

主は7、8節であなたが生まれ変わったことをあなたは知ることができると告げています。救いの現実を知ることができるのです。7節「あなたがたは新しく生まれなければならない、とわたしが言ったことを不思議に思ってはなりません。」、なぜ、イエスはこのようなことを言われたのか？イエスはニコデモのことをよく知っておられたし、ニコデモと同じように、多くのユダヤ人の指導者たちが同じ思いをもっていることをよくご存じだったからです。彼らが教えて来たことは「行ないによる救い」です。律法を守ることによる救いです。そのことを信じ教えて来たニコデモにとって、神によって新しく生まれ変わるというイエスが言われた教えは、非常な驚きでした。ですから、「不思議に思ってはなりません。」ということばには「不思議」と「驚き」という意味があります。イエスはニコデモに「わたしの教えを聞いて驚いてはいけません。どうして？と思ってははいけません。」と言われるのです。

そこで、そのことを「風」を用いて教えようとされます。8節「風はその思いのままに吹き、あなたはその音を聞くが、それがどこから来てどこへ行くかを知らない。御霊によって生まれる者もみな、そのとおりです。」、「風」と「御霊」の対比がされています。イエスはニコデモに言われます。「風を見ることができます

か？見ることはできないけれど、その存在ははっきりしているでしょう。」、風がなすこと、木々の葉が揺れること、土煙が舞うことなどで風が吹いていることが分かります。聖霊の働きも同じだと言います。聖霊の働きは人に理解できないけれど、その存在は明らかである。それは聖霊の為すみわざによって明らかになると言います。どのようなみわざか？罪人が変えられるというみわざです。

先ほども見たように、神に敵対し逆らっていた者が、神を愛する者、神に従う者へと変えられる、そして、新しい人生を歩み始めるのです。その変化によって、確かに、私たちを変えてくださる神、私たちが新しく生まれ変わらせてくださる神、その神が存在することが明らかになると言うのです。

B. 信仰の必要性 9-15節

そして、9-15節でイエスは「信仰の必要性」についてお話になります。新生の必要性を知ったあなたは、では、どうすればそれを経験することができるのか？そのことについて話されます。

1. 新生は人には理解できない 9節

ニコデモのことばによってそれが分かります。9節「ニコデモは答えて言った。「どうして、そのようなことがありうるのでしょうか。」、実は、4節でもニコデモは同じことを言っています。「…どのようにして…」と、理解できないからです。イエスが言われたこの新生、新しく生まれ変わることに、救いについて、ニコデモは理解できないのです。

2. 不信仰の叱責 10-12節

そこで、ニコデモに、また、同じような指導者に対する叱責が始まります。

1) 宗教的な未信者 10節

10節「イエスは答えて言われた。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こういうことがわからないのですか。」、ニコデモは非常に宗教的な人物でした。信仰心の熱い敬虔な人でした。でも、彼は救われていなかった。彼は霊的に盲目でした。主イエスはニコデモのことをこのように呼んでいます。「あなたはイスラエルの教師」と。実は、この「イスラエル」ということばにも「教師」にも、敢えて、定冠詞を付けています。なぜ、そのような言い方をしたのか？ニコデモが特別な教師だったからです。ユダヤ人の間ではよく知られて尊敬されている教師だったのです。ですから、イエスはそのことを知ってこのような表現を敢えて使われたのです。「あなたは旧約聖書をよく知っているのにこのことがわからないのか？」と…。なぜなら、旧約聖書はイエスについて語っているからです。

思い出してください。ルカの福音書24章に、皆さんよくご存じですが、エマオに向かっていた二人の弟子たちとイエスはいっしょに歩きました。そのときにイエスがどのようなことを言われたのか？そのことが記されています。24:27、44「:27それから、イエスは、モーセおよびすべての預言者から始めて、聖書全体の中で、ご自分について書いてある事ながらを彼らに説き明かされた。…:44 さて、そこでイエスは言われた。「わたしがまだあなたがたといっしょにいたころ、あなたがたに話したことばはこうです。わたしについてモーセの律法と預言者と詩篇とに書いてあることは、必ず全部成就するということでした。」、彼らは旧約聖書に通じていたのです。旧約聖書はだれのことを教えているか？そのことは分かって当然だったのです。その著名な教師でありながら、ユダヤ人の指導者の一人でありながら、そのことに気付いていない、旧約聖書はここにいるイエスのことを記している、そのことに気付いていないと、霊的に盲目な状態のこと、そのことを責めておられるのです。「あなたはイスラエルの教師でありながら、こういうことがわからないのですか。」と。

2) 頑なな未信者 11, 12節

「:11 まことに、まことに、あなたに告げます。わたしたちは、知っていることを話し、見たことをあかししているのに、あなたがたは、わたしたちのあかしを受け入れません。:12 あなたがたは、わたしが地上のことを話したとき、信じないくらいなら、天上のことを話したとて、どうして信じるでしょう。」、イエスが言われたのは「わたしたちは、知っていることを話し、見たことをあかししている」と、ニコデモを代表とする人々の頑なさ責めるのです。

***主イエスは、ご自分が語っていることは自分の考えではないことを教えた 11節**

11節でイエスは「わたしたちは」と言っています。真理を宣べ伝えたのはイエスだけではなかったのです。イエスの前にバプテスマのヨハネが現われています。彼もそうでした。そして、先に見たように、旧約の預言者たちもそうだったのです。彼らはみな、自分たちが神から聞いたことを伝えたのです。イエスはヨハネ7:16、17、また、8:26-28、12:49でも繰り返して言われていることは、イエスはこの教えを自分からしているのではないということです。7:16「そこでイエスは彼らに答えて言われた。「わたしの教えは、わたしのものではなく、わたしを遣わした方のものです。」、7:17「だれでも神のみこころを行おうと願うなら、その人には、この教えが神から出たものか、わたしが自分から語っているのかがわかります。」、8:26-28「:26わたしには、あなたがたについて言うべきこと、さばくべきことがたくさんあります。しかし、わたしを遣わした方は真実であって、わたしはその方から聞いたことをそのまま世に

告げるのです。:27 彼らは、イエスが父のことを語っておられたことを悟らなかった。:28 イエスは言われた。「あなたがたが人の子を上げてしまうと、その時、あなたがたは、わたしが何であるか、また、わたしがわたし自身からは何事もせず、ただ父がわたしに教えられたとおりに、これらのことを話していることを、知るようになります。」、12:49「わたしは、自分から話したのではありません。わたしを遣わした父ご自身が、わたしが何を言い、何を話すべきかをお命じになりました。」。

*あなたがたはわたしたちの証を受け入れません 11節

ですから、イエスは「わたしが語っているのはわたしが勝手に作り出したものではなく、神がわたしに知らしめてくださったこと、語れと言われたことをわたしは語っている。そして、それはわたしだけではない。バプテスマのヨハネもそうだし、旧約の預言者たちもそうだった。それをあなたたちは聞いていながら、あなたたちはそれを受け入れることをしない。」と、このように言って責めるのです。

11節には「あなたがたは」とあります。信じないのはニコデモだけではなかったのです。まさに、ニコデモに代表されるように、全イスラエルがそうだったのです。信じていない、証を受け入れないと。つまり、イエスはここでニコデモに対して「あなたがたは旧約を学んで来たではないか。そして、その旧約は私のことを教えているにも関わらず、あなたがたはわたしを信じようとしない。」と言われたのです。

*彼らの問題は、頑なという不信心、不信仰の心 12節

*「心の頑なさ」：信じないのは、信じたくないから

人の問題というのは、人が神を信じないというのは「信じたくないから信じない」ことです。何度聞いても信じたくない者は信じません。こうして、イエスの話を聞き、イエスの奇蹟を見ていても、悲しいことに、彼らは心を開こうとしません。だから、イエスは12節でこのように言っています。「わたしが地上のことを話したとき、信じないくらいなら、」と、何のことを言っているのか？イエスはこの地上でいろいろな形でメッセージを語って来られました。奇蹟をもって、また、実際の教えをもって…。それを見ていながらあなたがたは信じないと。ある人たちは「それは悪魔の力で為した」と言います。あなたがたはこの地上で見えていながら信じない、それなら、わたしが天のことを話しても、神の恵みについて話しても、神の救いについて話しても、— 実は、そのことは13節から話しますが、— あなたがたはそれを信じないだろうと。だから、イエスは人間の大きな問題をはっきりと指摘されたのです。「頑なな心」です。「信じたくないと思っているから信じない」のです。

もし、私たちが本当に真理を求めようとするなら神はそれを示してくださいます。しかし残念ながら、多くの人たちはそれを求めようとしていません。

3. 主の備えられた救いを信じる 13-15節

最後に、13-15節で「主の備えられた救いを信じ受け入れることが必要だ」と言われます。これによってあなたは天の御国に入ることができる、これによって天国に行ける、あなたは生まれ変わることもできると、そのことをイエスは言っておられます。

1) 主には救いを語る資格がある 13節

「だれも天に上った者はいません。しかし天から下った者はいます。すなわち人の子です。」。イエスは「わたしには神について、永遠について、救いについて、この神のご計画について語る権利がある。」ということ言われたのです。なぜか？わたしだけが天から下って来たからだ、わたしだけが天の様子を知っているし、神のみこころを知っているとされるのです。天について救いについていろいろと述べる人はいるでしょう。でも、イエス・キリストだけがその権利を持っているのです。なぜなら、イエス・キリストだけがこの地上に来られ、そして、人となられた神だからです。この方だけにその権利があるのです。

2) 主には救う力がある 14, 15節

そして、この主には罪人を救う力があること、罪人を新しく生まれ変わらせる力があること、そのことをお話しになります。14-15節「:14 モーセが荒野で蛇を上げたように、人の子もまた上げられなければなりません。:15 それは、信じる者がみな、人の子にあって永遠のいのちを持つためです。」、イエスはここでモーセが実際に為したこと、民数記21章の出来事を引き合いに出しています。思い出してください。イスラエルの人々は神の前に、また、モーセに対して不平を言うのです。それが繰り返されていました。神が何を為さったのか？神はイスラエルの人々の中に燃える蛇を送ったと言います。このような表現がされているのは、この蛇によって大変な痛みが生じたからです。この蛇は毒蛇でした。だから、この蛇に噛まれた者は死んだのです。

その蛇がやって来て多くの人たちが死に絶えていくのを見た時に、イスラエルの人々は神の前に「赦してください」と悔い改めるのです。その時に神がモーセに命じられたことは「【主】はモーセに仰せられた。「あなたは燃える蛇を作り、それを旗ざおの上につけよ。すべてかまれた者は、それを仰ぎ見れば、生きる。」

(民数記 21 : 8) でした。モーセは青銅の蛇を作り、それを旗竿の上につけました。数百万人の人々が見えるようにそのようにしたのです。「もし蛇が人をかんでも、その者が青銅の蛇を仰ぎ見ると、生きた。」(21 : 9) と。多くの人たちは言われた通りにその青銅の蛇を見上げて、死にかかっていた者たちが助かりました。イエスは敢えてこの出来事を引き合いに出して、ある真理を教えようと為さったのです。それは、あの青銅の蛇が死にかかっていた人々を救ったように、わたしは死にかかっている人々を、永遠の滅びに向かっている人々を救うことができるのだということです。あの青銅の蛇の出来事の時に、人々は次の三つのことに気付きました。(1) 自分自身にはこの迫り来る死から助かる方法がないということです。蛇に噛まれてしまったらもうどうすることもできない、死を待つしかない。それはもう現実の問題として彼らに迫っていました。ですから、自分でこの死から逃れる方法はないと分かっていました。(2) この青銅の蛇は自分をこの迫り来る死から救い出すために作られたということを知りました。この青銅の蛇が作られたのは、私をこの死から救い出すためだと。(3) 青銅の蛇を仰ぎ見ることによって、この迫り来る死から救われることを知り、そして、その約束を信じたのです。そして、彼らは救われました。

このことを引き合いに出したイエスは、同じことが言えるとニコデモに語ります。あなたがたも今死に、永遠の滅びに向かっているけれどそこから救われる。あなたは罪に染まっているけれど、あなたは新しく生まれ変わることができる。どうすればいいのか？まず、あなたは新しく生まれ変わることが必要だということを認めなさい。あなたには知識があるかもしれない、財産があるかもしれない、力があるかもしれない。しかし、あなたが覚えなければいけない一番大切なことは、

(1) 私は新しく生まれ変わることが必要だ、私は罪に汚れている、私は生まれ変わらなければいけない、そのことをまず認めることが必要です。

(2) あなたは自分で自分を新しく生まれ変わらせることができないということ知らなければいけません。あのイスラエル人々が自分で自分を救えないということに気付かなければいけなかったように、あなたが気付かなければいけないのは、自分の力で自分を罪から救い出すことはできないということです。どんなに努力をしてもあなたは自分を永遠の滅びから救い出すことはできない。そのことを知らないといけなし、そのことを認めないといけなしのです。

(3) 主イエスはあなたを生まれ変わらせるために来てくださった救い主であることを信じることです。青銅の蛇が私を救うために作られたことを知って、そして、それを仰ぎ見たように、主イエス・キリストはあなたを、罪に染まったあなたをその罪から救い出すために、生まれ変わらせるために来てくださった救い主であることを、そのことを信じることです。

(4) 死よりの復活によって証明された主イエスの完全な救いは、罪とその永遠のさばきからあなたを完全に解放し、あなたを新しく生まれ変わらせることができるということを信じることです。イエスが備えてくださった救いは、私をその罪から完全に救い出すことができる、そのことを信じることです。

(5) この主イエス・キリストをあなたの神として救い主として主として信じて従って行く決心をすることです。人々はモーセのメッセージを聞いた時に、言われたように信じました、そして仰ぎ見ました。

イエスは言われます。「わたしはあなたを生まれ変わらせることができる。そのためにわたしはこの地上に来たのだ。わたしを信じてわたしを仰ぎ見なさい！わたしを信じて新しく生まれ変わらなさい！」と。そのことをイエスはニコデモに、そして、全世界の人々に教えてくださっているのです。

その当ても、多くの人々はこのメッセージを聞いてもそれを拒みました。そして、彼らには当然の報いが訪れました。それは死でした。今の私たちも同じです。こうしてイエスはあなたのために完全な救いを備えてくださった。どんな罪に染まっていようと、どんな罪人であろうと、あなたは生まれ変わることができるのです。イエス・キリストのその死は、イエスの救いは、どんな罪人でもその罪からきよめることができます。問題は、それを拒み続けているあなたです。悲しいことに、あなたにはその救いがありません。どんなに知識を持っていようと、どんなに経験を積んでいようと、ニコデモのように人々から尊敬されるような指導者であっても、彼らはその救い主を知らなかったのです。

あなたはご存じですか？この救い主を！この救い主によって新しく生まれ変わっていますか？あなたの心の中に新しい願いが与えられていますか？

どうぞ、今日、主がニコデモに教えられたように、このすばらしい救いを備えてくださった神の前に「どうぞ、私を新しく生まれ変わらせてください」と救いを求めて出て来ることです。主はその約束をあなたに与えてくださいます。今日があなたにとって救いの日となることを願っています。

救われた皆さん、感謝なことです。あなたにはもう永遠が約束されています。あなたは神の国のことを知っているだけでない、神の国にはいる者としてもう生まれ変わったのです。感謝を持って生きることです。

《考えましょう》

1. どうして人間には「新生」が必要なのでしょう？その理由を記してください。
2. あなたが「新しく生まれ変わる」ために、主は何をしてくださいましたか？
3. どうして主イエスの教えだけが真実であり、信頼に価するのでしょうか？
その理由を記してください。
4. どうして、多くの人々はこの救い拒み続けるのでしょうか？
あなたはどのようにだと思えますか？